

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、カナダ・ドル マンスリー・レポート



ブラジル



メキシコ



トルコ



南アフリカ



オーストラリア



カナダ

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

設定・運用 明治安田アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第405号
加入協会：(社)日本証券投資顧問業協会/(社)投資信託協会



ブラジル



【足元の金融市場の動き】 ~ ブラジル・レアルは景気過熱感の沈静化、資源価格下落を受け反落 ~
 ブラジルでは小売売上高などの消費関連指標が継続的な金融引き締めを受けて低下基調に転じ、鉱工業生産などの生産関連指標でも減少傾向がみられました。政策金利は0.25%引き上げられて12%となりました。ブラジル・レアルは対ドルで2008年の金融危機後の高値を更新後、資源価格の下落などから反落しました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ ブラジル・レアルは資源価格、新興国の金融引き締めから上値の重い展開か ~
 景気については、利上げや自国通貨高の影響から過熱感が薄れてきており、減速が続くとみられます。物価については政府目標誘導レンジの上限(6.5%)を僅かながら上回ったためインフレ懸念が強まっています。政府はインフレを抑制しつつ高成長を目指すとしており、今後複数回利上げを行うことが予想されます。ブラジル・レアルは、資源価格の不安定化、中国、インドなど新興国における金融引き締めによる世界景気への影響が懸念され当面上値の重い展開になるとみられます。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】 ~ メキシコ・ペソはエネルギー価格の急落を受け下落 ~
 メキシコでは小売売上高、消費者信頼感指数などの個人消費関連指標が予想を下回ったものの、製造業関連指標は依然高い水準にとどまっています。失業率も改善しており、景気回復が続いているとみられます。政策金利は4.5%に据え置かれています。メキシコ・ペソは4月末にかけて大幅に上昇しましたが、原油先物価格の急落、株価の下落を受けて下げに転じました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ メキシコ・ペソは米国景気、エネルギー価格動向からレンジ内での動きか ~
 景気については米国向け輸出を中心に回復が続くとみられています。ただ、東日本大震災後の日本からの部品供給の問題で中核産業である自動車の生産、輸出とも4月に急減していることに加え、エネルギー価格の下落や米国景気の先行き不透明感の強まりなどがあり今後注視されます。足元の物価が落ち着いていることから政策金利は据え置かれるとみられます。メキシコ・ペソは国内景気、エネルギー価格動向を睨みつつレンジ内での動きにとどまると予想しています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは新興国、資源国通貨の下げを受け下落～

トルコでは消費関連指標が好調なこと、鉱工業生産(前年比)が依然として高い伸びであることなど、景気は拡大基調となっています。政策金利は1月から6.25%に据え置かれています。トルコ・リラは4月中は強含みに推移しましたが、5月に入り新興国・資源国通貨やユーロが売られたことによる影響などから下げました。

【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは他の新興国、資源国通貨同様にレンジ内で弱含みか～

景気については内需中心に拡大しています。足元の物価は落ち着いており、エネルギー価格も上昇一服と景気にとって好ましい状況となっています。しかし景気拡大を受けて貿易収支の悪化が拡大していることが依然懸念されています。海外からの直接投資資金の流入の回復傾向や通貨下落によるユーロ圏向け輸出の増加などが期待されますが、対外債務の改善には時間を要するとみられます。政策金利については据え置かれるとみられています。トルコ・リラは他の新興国・資源国通貨同様にレンジ内で弱含みに推移するとみえています。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは利上げ観測から上昇の後、金価格の急落を受けて下落～

南アフリカでは政策金利を5.5%に据え置くことを発表しました。南アフリカ・ランドの対円での動きは、3月の消費者物価指数が+4.1%(前年比)と昨年6月以来の4%台に上昇し、利上げに対する期待が高まったことから、4月下旬にかけて堅調に推移しました。5月に入り銀価格が先物取引の最低証拠金の引き上げを受けて急落し、金価格も同様に下落しました。南アフリカ・ランドはこの影響を受けて下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジ内での動きながら強含む可能性～

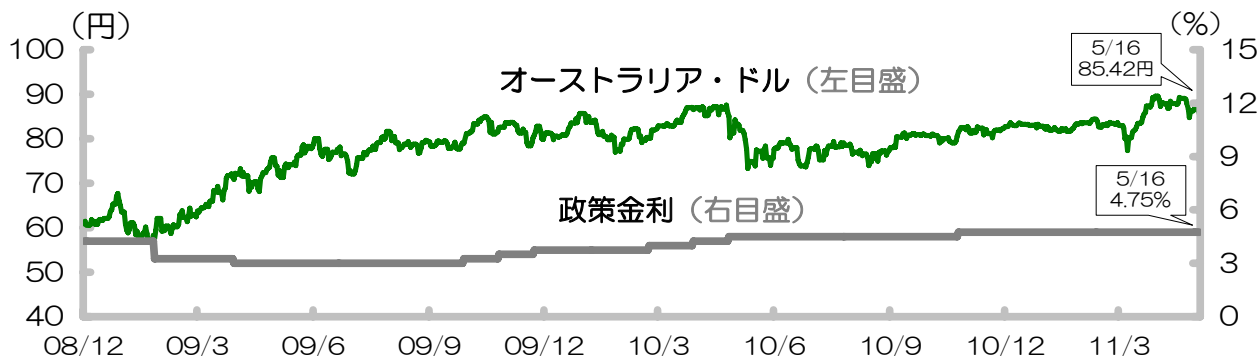
南アフリカでは失業率が依然として高水準にとどまり、製造業生産に鈍化がみられることから、当面は現行の政策金利が継続されるとみられます。同国準備銀行はインフレ見通しを上方修正し、年末にかけて目標インフレ率のレンジの上限(6%)に達すると発表しました。南アフリカランドは同国の景気が緩やかな回復傾向とみられる一方、金価格の上昇が一服していることもあり、レンジ内で推移するとみえています。ただし、インフレ見通しから利上げ観測が広がりやすく強含む可能性があるかとみえています。

データ出所: Bloomberg, 目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】～ オーストラリア・ドルは資源価格の下落を受け反落 ～

オーストラリアでは雇用や個人消費関連の指標に減速感がみられましたが、生産や住宅関連の指標は改善を示すなど、まちまちとなりました。政策金利は4.75%に据え置かれています。オーストラリア・ドルは4月に大幅に上昇した後、5月に入り資源価格の下落を受けて反落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは新興国の成長鈍化懸念などからレンジ内での推移か～

景気については、洪水被害の復興需要、世界景気の回復、高水準の資源開発投資などへの期待がある一方で、中国などの新興国の金融引き締めによるこれらの国の経済成長率鈍化への懸念もあります。金融政策については足元の消費者物価が上昇していることから引き締めスタンスを維持するとみられ、金利先高観測もあります。オーストラリア・ドルは資源価格が不安定化していることがある一方で、金利先高観測もあり、弱含みながらもレンジ内での動きにとどまるとみえています。



カナダ



【足元の金融市場の動き】～ カナダ・ドルは米国の弱めの経済指標とエネルギー価格の急落を受けて下落 ～

カナダでは、2月の実質GDPが+2.9%(前年比)と市場予想を下回り、前月比ではマイナスとなりました。2月小売売上高(前月比)は+0.4%となりました。3月の消費者物価指数(前年比)は市場予想を大幅に上回り+3.3%となりました。カナダ・ドルは、3月の消費者物価指数が上振れたことを受けて利上げ観測が再び高まったことや堅調なエネルギー価格を受けて底堅く推移しましたが、5月に入り米国の経済指標が弱含んだことや株価の下落、エネルギー価格の急落などを受けて大幅に下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは米国景気とエネルギー価格の動向からレンジ内での推移か～

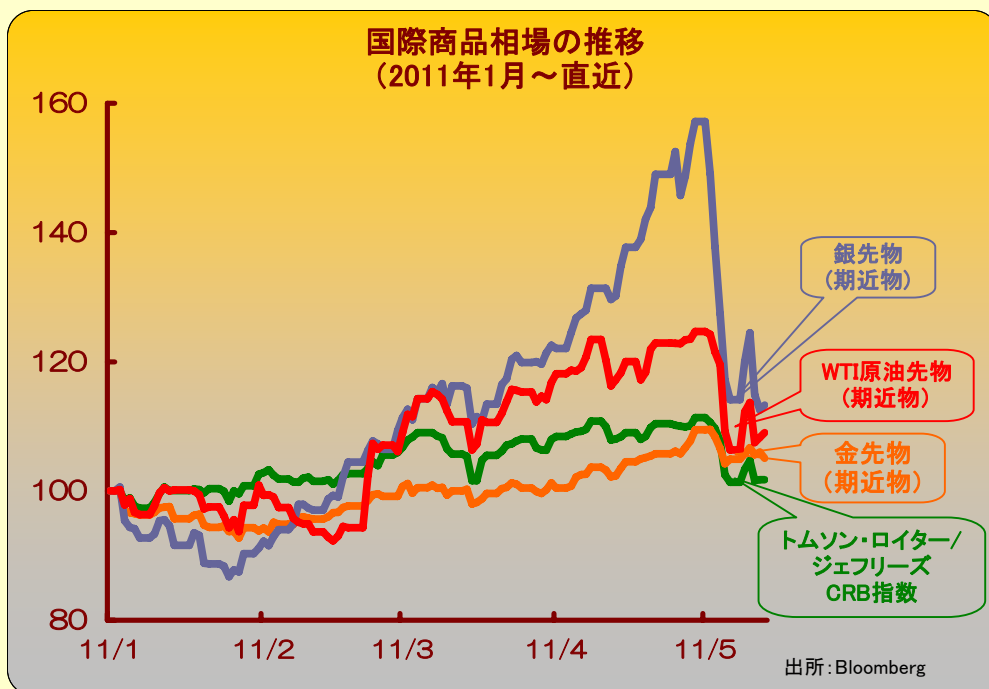
景気については、3月の輸出入がともに増加していることや失業率、雇用者数などの雇用関連指標に改善がみられることから、しばらく回復基調が続くとみえています。政策金利については、消費者物価指数の上昇を受けて再び早期の利上げ観測が高まってきています。カナダ・ドルは、最大の貿易相手国である米国の景気とエネルギー価格の動向を睨みつつ、レンジ内での動きになるとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

【商品市況の下落は、世界経済の成長鈍化を示唆？】

先月末から国際商品相場が下落しています。代表的な商品価格の指数であるトムソン・ロイター/ジェフリーズCRB指数は、銀相場下落をきっかけに直近の高値から9%程度調整しています。銀先物価格は1月末から3か月間で70%以上上昇の後、4月末から30%程度の急落となりました。この下落は、先物取引の最低証拠金の大幅な引き上げが発表されたことから始まりました。さらに原油、ガソリン、灯油の先物取引についても証拠金が引き上げられています。世界の株式市場は、この国際商品相場の急変を世界経済の成長率鈍化の予兆とみて警戒感を強めています。米国の景気指標をみても一時の勢いはなく、新興国中心に金融引き締めも進んでいます。また、QE2(米国の量的緩和第2弾)が6月で終了することから、過剰流動性の縮小から投資家のリスク許容度が低下し、商品市場から資金が流出したという見方もできます。しかしながら、今後エネルギー価格の反落がガソリン価格の調整につながり、個人消費に対してプラスに働くことも考えられるため、米国経済は一旦減速した後も、巡航速度とされる2.5~3.0%のペースでの成長に戻るのではないかとみています。



※上のグラフは、トムソン・ロイター/ジェフリーズCRB指数および金、銀、原油(WTI)の各先物価格(ニューヨーク終値)の数値について2010年12月末を100として指数化したものです。

※トムソン・ロイター/ジェフリーズCRB指数、WTIIに関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はThomson Reuters, Jefferies Financial Products, LLC、ニューヨーク商業取引所に帰属します。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。